熱海土木事務所の取組を発信しています

あたどだより

2023.3月

No.11

県道伊東大仁線（伊東市宇佐美）で「ゆずりあい車線」が完成しました

熱海土木事務所

2023年3月、県道伊東大仁線(伊東市宇佐美)で進めてきた「ゆずりあい車線」の整備工事が完成し、供用を開始しました。

県道伊東大仁線は、伊東市宇佐美(国道135号)から亀石峠を経て伊豆の国市三福(国道414号)に至る延長17.6kmの主要地方道です。沿道には東京2020オリンピックの自転車競技会場となった大型スポーツ施設があり、地域の産業、観光、防災上重要な路線となっています。

当該路線のうち熱海土木事務所管内の約7.2kmは、標高差約440m、平均勾配約6%と急勾配であるため、片側１車線区間では大型車等の低速車が走行する際に速度低下が発生していました。

このため熱海土木事務所では、大型スポーツ施設が東京2020オリンピックの自転車競技会場に決定 (2015.12)したことを契機として、3.0ｷﾛﾎﾟｽﾄ付近からの約0.9km区間において「ゆずりあい車線」整備を事業化し工事を進めてきました。以降、完成した区間から順次供用を開始してきましたが、このたび、最後の未整備区間約0.3kmの工事が完成しました。快適で安全な通行ができるようになり、地域間交流のさらなる活性化が期待されます。

改良!

ゆずりあい車線の整備
（2車線→３車線）

線形改良
（緩やかなｶｰﾌﾞへの改良）

転落防護柵整備
（自転車対応の高さ1.1m タイプを採用）

矢羽根型路面標示
（自転車の走行空間を示す路面標示）

県道伊東大仁線は
「太平洋岸自転車道路」
の一部区間です

太平洋岸自転車道HPはこちら→

太平洋岸自転車道とは、千葉県銚子市から神奈川県、静岡県、愛知県、三重県の太平洋岸を走り、和歌山県和歌山市に至る延長約1,400kmの自転車道構想です。

伊東大仁線は、伊豆半島の付け根付近を東西にショートカットするルートとして位置付けけられています。